

美しい風景を未来へ・・・

亀山市和賀白川線詳細デザイン検討委員会は、亀山市長より和賀白川線鈴鹿川渡河部の景観について、美しい鈴鹿川の流れや鈴鹿山脈の山並みと調和し、市民に親しまれる景観を創造する検討の依頼を受けました。

本委員会は平成 21 年に和賀白川線橋梁デザイン懇談会によって提案された構造基本形式をもとに、橋上施設等の詳細デザインについて、平成 22 年 4 月 23 日に第 1 回委員会を開催し、3 回にわたる検討を重ね、その結論を得ましたのでご報告いたします。

本橋は、亀山市中心部に近く、豊かな自然が残される鈴鹿川を渡河する橋として、改めて市民の方々が美しい景観を体感することが出来る場所となると考えられます。

したがって、この橋の整備にあたっては、本委員会での検討結果が活用され、より美しい橋が創られるように期待するものであります。

また、豊かな河川空間を活かした周辺整備等についても今後検討され、本橋とともに市民に親しまれるまちづくりを望むものであります。

平成 22 年 9 月

亀山市和賀白川線詳細デザイン検討委員会

委員長 塩見 弘幸

# 和賀白川線鈴鹿川渡河部景観検討結果 報告書



平成 22 年 9 月

亀山市和賀白川線詳細デザイン検討委員会

## 亀山市和賀白川線詳細デザイン検討委員会 報 告

本委員会は平成22年4月23日、貴職より依頼のあった、和賀白川線鈴鹿川渡河部の詳細デザインについて鋭意検討を重ねてきましたが、このたび検討結果をまとめましたので報告します。

平成22年9月  
亀 山 市 長 櫻 井 義 之 殿

### 亀山市和賀白川線詳細デザイン検討委員会

委員長 塩見弘幸（中部大学教授）

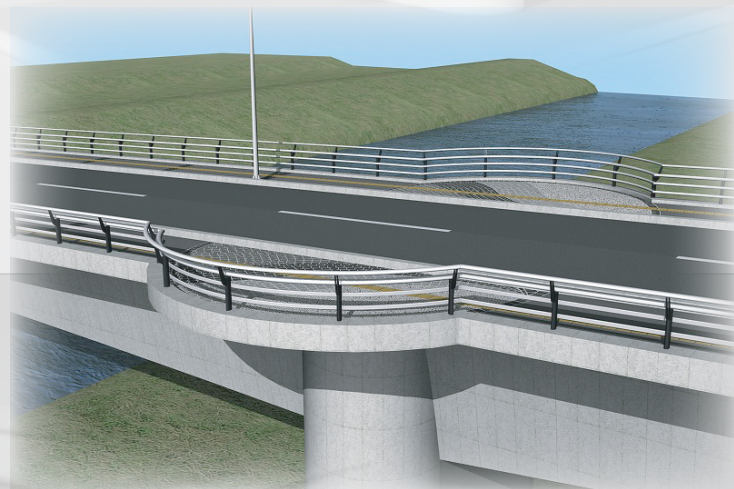
委 員 佐々木宜明（亀山市文化財保護審議会委員） 森 敏子（子供絵画教室アトリエ・エピ主宰）  
奥田裕子（一級建築士 景設計室） 寺山 昭（地域の活性化を考える会代表）  
近藤 巧（亀山市自治会連合会長） 廣森 勲（亀山市地区コミュニティ連絡協議会長）  
塩井直彦（前任：徳元 真一）（国土交通省三重河川国道事務所長）  
水谷和彦（国土交通省北勢国道事務所長） 奥野元洋（三重県県土整備部総括室長）（順不同）

### ◇橋上空間コンセプト

#### 原風景的な空間を体感し提供する開放的な空間創り

##### 橋上施設デザイン

橋上からの鈴鹿川や鈴鹿山脈等への眺望性や、背景となる鈴鹿山脈と本橋が創る新たな景観における調和を考慮して、できる限り存在感が少なく、シンプルで透過性の高いデザインで橋上空間を構成する。



##### 高欄デザイン

高欄兼用車両用防護柵を基本とし、風景への眺望性を高めるため、透過性が高く、軽快感の感じられる、水平ラインを基調としたデザインを採用する。水平レールはシルバー色とし、支柱をダークグレー色にすることによって水平性を強調する。

##### 照明デザイン

外部遠景からの眺めや、橋上における眺めにおいて、照明柱の存在感による煩雑な景観を避けるために、シンプルな鉛直柱のデザインを採用する。色彩はシルバーグレー色とすることによって軽快さを演出する。

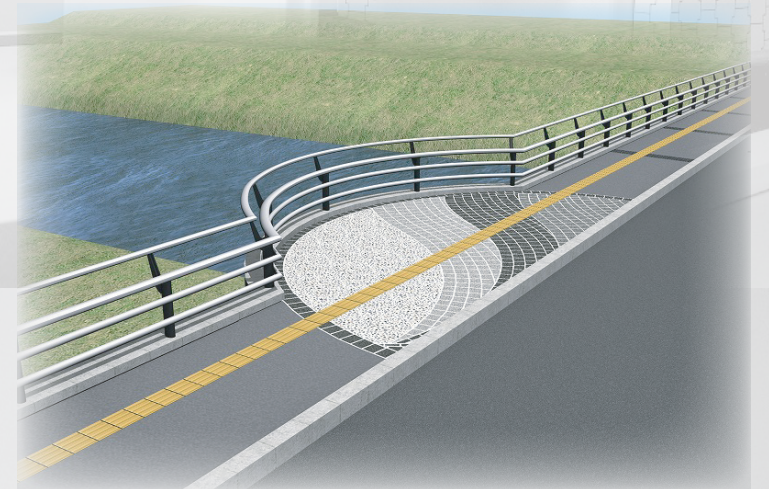
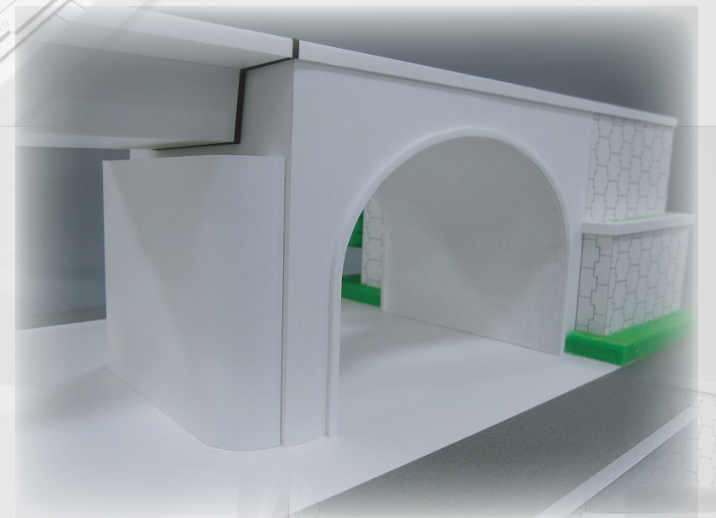
### ◇橋梁全体コンセプト

#### 鈴鹿川の原風景に融和するシンプルで軽快感のあるシルエット創り



### 構造部詳細デザイン

橋梁部本体は、床版張出し量を大きくし、桁断面を逆台形にすることによって、陰影の効果により、桁を薄く見せる演出を行う。また、小判型断面の橋脚部に柔らかなイメージの円形バルコニーを設置し、佇みの場を設ける。右岸橋台部の開口部をアーチ形状にすることによって、柔らかさと安定感を演出するとともに、擁壁部を2段に分割し、側道間に中低木の植栽を施すことによって、圧迫感を軽減する。



##### 親柱デザイン

自然石素材の採用により、自然景観との調和を図るとともに、石材の色、表面処理の組み合わせにより、鈴鹿川の「流れ」をモチーフとしたデザインとすることで、架橋地の地域らしさを演出する。

##### 舗装デザイン

一般部はアスファルト舗装を基調とし、タイルによるラインを配置し、リズム感を演出する。バルコニー部は佇みの場として、洗い出し舗装、タイル舗装を用いることによって、親柱デザインと関連した「流れ」のイメージを演出する。